令和６年度第１回朝倉市総合教育会議

教育部

「英語力向上」プロジェクトについて

現代社会では、グローバル化が進んでおり、ビジネス・観光など様々な場所での交流が盛んである。そのような社会の中で活躍・貢献していくためには、英語の習得・活用は必須となると考えられる。

朝倉市学校教育目標である「ふるさと朝倉を愛し、社会に貢献できる子どもを育成」するためにも、英語力向上は必要不可欠となると考えられる。朝倉市教育委員会としては、朝倉市学校教育目標の具現化に向け、『新「朝倉の教育」』の一つである『「英語力向上」プロジェクト』を推進していく。

１　児童生徒及び授業の現状

〔小学校〕 ７割程度の６年生児童は、英語を好きで理解をしている。
〔中学校〕 学年が上がるにつれ、成績が下降傾向にある。
〔授　業〕 コミュニケーション力を育成する授業に課題がある。

〔小学校〕 高学年：外国語科（７０時間）、中学年：外国語活動（３５時間）

・英語が好きと回答した児童は、７割程度を推移している。 **【資料①】**

・英語を大切だと捉えている児童は、増加傾向にある。 **【資料①】**

・英語の内容を理解している児童は、８割程度である。 **【資料①】**

・将来、英語を使う生活（職業）を考えている児童は、５割程度である。 **【資料②】**

・英語の授業で考えや気持ちを伝え合うことができている児童は、８割程度である。 **【資料②】**

・学校以外で英語を使う機会があると回答した児童は、３割程度である。 **【資料③】**

○外国語科、外国語活動の授業

・外国語に慣れ親しむ段階である外国語活動（中学年）・外国語科（高学年）において、体験を重視した授業が実施されている。

・「英語が大切である」と捉えている児童と「英語が好き」と回答している児童の割合の差については、高学年の「読むこと・書くこと」の内容における音声や文字、語彙、文構造、言語の働きに関する知識・技能に困難さを感じていることが要因であると考える。

・異文化理解も学ぶ内容であることを意識した単元計画、活動の工夫のみが意識され育成する資質・能力を育む学習指導が十分ではない。

〔中学校〕

・学年を追うごとに県平均値との差が大きくなっている。 **【資料④】**

・英検 IBA（３年生）から、平均スコアが年々下がってきている。 **【資料⑤】**

・「語い・熟語・文法」「読解」は、学年が上がるにつれ正答率が上昇している。 **【資料⑤】**

・「リスニング」は、学年が上がるにつれ正答率が下降している。 **【資料⑤】**

・すべての領域において、国（県）より正答率が大きく下回っている。 **【資料⑥】**

・生徒質問紙から、「即興で自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動が行われていた」（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）と答えた生徒が全国と比べて-6.6%低い。 **【資料⑦】**

・生徒質問紙から、「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた」（当てはまる・

どちらかといえば当てはまる)と答えた生徒が全国と比べて-2.9%低い。　【資料⑦】

・英語の勉強は好きですか(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)は全国と比べ-1.5%であるが、英語の授業の内容が分かる(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)は-6.6%と差が開いている。　【資料⑦】

○英語の授業

・「語い・熟語・文法」「読解」は、家庭学習でも行い、基礎基本の定着ができている。一方、「リスニング」といったネイティブの発音の聞き取り、話す・聞く速度、多様な相手とのコミュニケーションについては、授業改善を行い、身に付けさせる必要がある。

・授業において基礎基本の定着を図る上で、家庭学習だけでなく、ICT を活用した繰り返し活動の充実を図る取組が必要である。

・「話すこと」を伸ばすために、即興で自己の考えや気持ちを英語で伝え合う活動を取り入れる必要がある。

・「書くこと」を伸ばすために、授業で自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動を取り入れる必要がある。

・ICT 機器や ALT を活用したリスニング、自己の考えを即興で表現する活動を取り入れた授業づくりや自分の考えや気持ちを英語で書く活動の推進が十分になされていないことが原因だと考えられる。

2　課題解決に向けた方策

市教委としての方向性（学力向上：特に英語力）

・外国語活動（小学校　中学年）コミュニケーションを図る素地

・外国語科　（小学校　高学年）コミュニケーションを図る基礎

・外国語科　（中学校）　　コミュニケーションを図る能力　　を育成する授業づくり

〔小学校〕「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の内容を単独で授業するのではなく、４つの内容を往還しながら実際のコミュニケーションにおいて活用できるように学習指導を行う必要がある。

○ALT 配置を増やす

〔中学校〕授業で身に付ける「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の内容を往還させ、コミュニケーション能力の育成を図る授業づくりに取り組む。

自分に合う目標を設定し（英語検定合格)、自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことで自己調整する力を育むとともに、達成感や成就感を高め、英語の学習に主体的に取り組む生徒を育てる。

○英語検定受験料の補助

〔小学校〕

○ALT 配置を増やす　※現状については、別紙【資料⑧】を参照

≪今後≫※中学校については、現状維持

・小学校英語活動事業 JET：全小学校の中学年（４７時間)、低学年（１４時間)

・ALT 活用事業：全小学校の高学年（年間７０時間）に配置する予定。

・北筑後教育事務所から派遣は継続予定。

≪効果≫

・ALT と関わる時間が増えることより、実際のコミュニケーションにおいて活用できる授業を実施することができる。(パフォーマンス課題を取り入れた授業)

・ALT と担任が授業の打ち合わせ等で日常的に交流することにより、教師の英語力も向上する。

・中学校の英語教諭と連携を図ることにより、ALT を活用した授業やコミュニケーション力の系統性について考えることができ、中学校区で育成する資質・能力が明確になる。

〔中学校〕

○朝倉市生徒の英検受験への取組　※小学校での実施は現在のところ計画はしていない。

≪現状≫

・後援会の補助により、学校全体で英検に取り組んでいる学校１校(全額補助)

・後援会の補助により、第２学年に英語検定を受けさせている学校１校(全額補助)

・後援会の補助により、受験希望者の検定料の全額を出している学校１校(全額補助)

・後援会の補助により、受験者に検定料の一部を出している学校１校(８００円補助)

・後援会の補助により、合格者に検定料の一部を出している学校１校(合格者半額補助)

＊英検受験料　５級 2.500 円　４級 2.900 円　３級 5.000 円　準２級 6.100 円　２級 6.900 円

≪今後≫

・市からの補助により市内全生徒の英検受験合格者への補助や英検の問題集の購入を行う。

(問題集は 1 冊 1.500 円×5 つの級　各学校 7.500 円)

≪効果≫

・コミュニケーション能力を身に付ける授業づくりと英語検定の取組の両輪により、主体的に学習に取り組もうとする意欲が高まる。

・自己で決定した級の英検合格に向けて、家庭学習の内容や方法を自分で計画することにより、自己調整する力が高まるとともに、達成感や成就感を味わうことができる。